

【研究PTA発表】

定期総会終了後に、県P連
委嘱事業「研究PTA」指定
校の成果発表がありました。

「地域・行政と連携したPTA
活動と開かれた学校づくり」
さくら市立氏家中学校PTA

(さくら市PTA協議会)
研究課題を設定した経緯と
して、SNSなどの普及に伴
い、いじめやネットトラブ
ルが急増したことがあり、そ
で、PTA活動を地域・行政
と連携して行うことで多面
から子どもたちを見守り、関
わることで、健全に育成して
いこうという目的がありま
す。

学校とは本来、地域社会の
要請の下、地域の子どもたち
を育成する場所であり、ま
学校が閉鎖的・不透明では地
域の協力を得られるはずもあ
りません。保護者が学校と地
域の橋渡しの役割をすること
で、開かれた学校をつくり、
地域からの信頼を築き、様々
な支援をいただく必要があり
ます。そこで次にあげる3つ
の取り組みを行いました。
①あいさつ運動を年5回、小・
中学校が連携して登校時に旗
を持って実施しました。
②「愛のパトロール活動」と
題して、子どもたちとのコ
ミュニケーションを図ること

を目的として、地域の夏祭り
等の行事の際に巡回し、防犯
運動を実施しました。

③行政と連携した情報モラル
運動として、平成28年度に全
国Webカウンセリング協議
会理事長の安川雅史氏による
講演を実施しました。平成27
年度のアンケートでは、小学
校5年生・中学校2年生の約
6割がSNSを利用、普段で
も1時間以上。平成28年度の
アンケートでは、情報メデイ
ア利用に関するルールづくり
についての問いに対して、利
用する時間や場面が第1位で
した。このことから、SNS
をはじめとするインターネッ
ト環境等の利用者が多く、や
や依存する傾向があることか
ら「ノーマデリアチャレンジ
シート」(メデイアを使用し
ない日)というものを活用し
ていく必要性を感じました。

これらのことを実施してい
くことで学校と地域と保護者
との距離が縮まり、あいさつ、
防犯運動と回を重ねるごとに
みんなそれぞれの意識も高ま
りました。また、日々変化する
情報化社会に対し、それを
利用する者への情報モラル教
育と利用に関するルールづく
りの必要性を再認識すること
ができました。

今後の課題として、「家庭
などでどう活用するか」「ど
う家庭に浸透させるか」など、

PTAとして行政を巻き込ん
で各家庭に関心をもち、縦
と横の連携を強化していく必
要があります。

この研究発表を聞き、学校
は地域コミュニティの中心の
一つであり、地域を離れては
存在しません。子どもは本来、
家庭や地域社会の中で育つて
いくものであり、学校、地域、
家庭が連携して関係を強化す
ることが必要不可欠であると
あらためて考えさせられまし
た。

(館野進二)



「PTAを核とした地域力強
化と生徒・地域によるまちづ
くりを目指して」

鹿沼市立東中学校PTA

(鹿沼市PTA連絡協議会)

PTAを中心に地域と連携
した様々な活動を通して研究
課題に取り組みました。PT
A・地域・生徒が共同作業す
ることで、今までにない活動
ができ、それがまちづくりの
きっかけになりました。

平成26年度から地域教育協

議会を開催し、2年間の成果
と課題をもとに、平成28年度
から3つの重点課題を設け、
活動を開始しました。①自主
的な地域連携活動団体のチー
フを中心に活動を進める。②
東雲弁当第3弾・バラ園開放
デーの企画・運営・実施。③
中学生が地域に出てボラン
ティア活動を行う。そして、
それらの課題を具体的に進め
るにあたり、「東雲ボランティア
11の柱」として、学校支援
コーディネーター会議を月1
回行いました。

東雲料理教室では、家庭で
できるヘルシー中華をキー
ワードに年3回行い、12月に
地域のコミュニティセン
ターで、東雲弁当「東雲中華
発表会」を行いました。

東雲バラ園管理育成では、
200㎡に70本のバラと周り
にハーブや草花が植えられて
います。月1回管理作業を行
い、作業後はお茶会の場を設
けて地域の方と交流を深めま
した。また、5月と10月には
「バラ園開放デー」として地
域に開放し、オーケストラの
演奏や模擬店、生徒たちの催
し物等を行いました。

他にボランティア活動とし
て、立哨活動、図書支援ボラ
ンティア、部活動指導ボラン
ティアなどを行っています。
これらの活動を通して3つ
の成果をあげることができま

した。

①年間延べ6000人のボラン
ティアの参加があり、地域と
の関わりを深めることができ
ました。特に、秋のバラ園で
は169名、東雲料理教室で
は234名の参加がありまし
た。

②東雲弁当発表会は本年度3
回目ということもあり地域の
関心の高まりを感じられ、バ
ラ園開放デーは近所の方たち
の参加が増え、地域の飲食店
の来店もありました。

③生徒の変容として、ボラン
ティアをした生徒の数が、
春より秋のほうが増えまし
た。

次年度の重点課題は①地
域チームを中心に活動を進
める。②バラ園活動の継続と
持続可能な地域連携事業の開
発・運営③地域における中学
生のボランティア活動に向け
て、教師が地域に向き、可
能性を検討する。以上を活動
の軸に今後も地域から信頼さ
れる学校を目指して活動を続
けて行きます。(駒場 威)

